



教育支援センターだより

3月号 令和5年度 第12号

令和6年 3月18日発行(通算168号)

花かおり
緑あふれ
人輝くまち
こうのす



- 教育相談事業
- 適応指導教室事業
- 特別支援教育事業
- 研修事業
- 家庭地域連携事業

鴻巣市立教育支援センター

〒365-0004 鴻巣市関新田1281番地1

TEL 048-569-3181

FAX 048-569-1773



一人一人の良さを引き出す

指導主事 池田 祐輔

厳しい寒さも少しずつ和らぎ、春の訪れを感じる日も増えてきました。今年度の締めくくりの時期にあたり、1年を振り返ってみると様々なことがありました。中でも、特別支援教育に関する研修や、事例検討等を通して得た経験や知見は、大変貴重なものでした。今回はその中から、特にお伝えしたい内容について2点述べさせていただきます。

(1) インクルーシブ教育システム

文部科学省では、このことについて、「インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。」としています。本市においても、小・中学校における通常学級、通級指導教室、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しています。また、支援籍学習や交流・共同学習も行われておりますが、今後はさらに連携を深め、効果的に実施できるよう、教育支援センターとしても支援いたしますのでご相談ください。

通常学級の中にも、何らかの困りや、勉強・生活に難しさを感じている児童生徒が少なからず在籍している現状があります。そのような児童生徒にも、合理的配慮が提供されることが求められており、環境整備や専門性の育成が急務となっています。特別支援教育の研修会では、通級指導教室や特別支援学級、特別支援教育コーディネーターの先生方にご参加いただくことが多かったのですが、全ての児童生徒の支援・指導に生かしていただくためにも、通常学級の先生方の積極的なご参加をお待ちしています。

(2) レジリエンス

あまり耳慣れない言葉ですが、レジリエンスとは、「ストレスや逆境に対する『精神的回復力』『自然的治癒力』『弾力性』といった意味をもつ言葉です。これは、「逆境に立ち向かい闘う強靱な心」というよりは、「まあ、いいか」と受け流したり、人に頼って助けてもらったり、「次はがんばろう」と切り替えたりする力というイメージのほうがより近いようです。このレジリエンスが低いと、少しの失敗でも大きなショックを受けたり、予測どおりに物事が進まないことで不安になったりします。「怒る」「泣き叫ぶ」「不機嫌」「乱暴する」「八つ当たり」のように、他者への攻撃的な言動として表出しやすいのはそのためです。逆にレジリエンスを高めれば、自分の良いところ目を向けることや、自分で考えて行動すること、失敗しても立ち直ることが期待できます。そんな向い風に負けないたくましさ育てるためには、失敗に対して注意する又はがまんを教えるという頭ごなしの指導一辺倒にならず、以下のような接し方が効果的とされています。

① 良いところを見つけ、発揮する場を設定する。

例) じっとしていられない子には、配り係など、動いてもいい時間を作る。

→ 短所を別の角度から見て、長所としてとらえる。

② 人から教わる力を育てる

例) 大人の話聞いて行う。手本をよく見て真似る。大人が手を添えて行う。

→ 一人で立ち向かわなくていいときもあるということを伝える。頼れるという安心感。

③ 小さな失敗を笑いあえるようにする

例) 失敗を責めすぎない、心配しすぎない。失敗したら、後始末や挽回方法を教える。

→ 失敗を笑いあう中で、ショックを和らげ、気分を切り替えられるようにする。

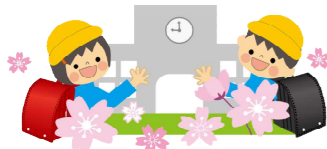
もうすでに日頃実践されていることもあるかもしれませんが、改めて「レジリエンス」という視点をもって再確認されてみてはいかがでしょうか。



新入学を前にして

4月の入学式が近づくにつれて、保護者やご家族の皆様の期待が高まる一方で、一抹の不安をお感じかもしれません。希望に胸を膨らませて入学しても、環境の変化になじめず不適応状態になることがあります。小学校では、集団行動が取れない、授業中に座っていられない、話を聞けない児童がいます(小1プロブレム)。中学校では、授業スタイルの変化、部活動の先輩・後輩関係、勉強の負担増加等を要因として不登校になる生徒がいます(中1ギャップ)。また高校入学後には、幼少期からの人とのつながりが切れ、学習や進路の悩みから孤立化し不登校・退学となる場合があります(高1クライシス)。

成長の節目である入学期は、子どもたちの心が大きく揺れ動きます。滑らかな接続のため、小さな変化を見逃さず躊躇なく早めに対応すること、幼稚園・保育所(園)を含め校種間の連携を一層進めることが大切です。お困りの節は、ぜひ教育支援センターにご相談ください。



2月の相談状況 346件

相談内訳	R6. 2月	R6. 1月
相談者来所	153	92
相談員等の学校等への訪問	107	122
電話	86	86

主な相談者別内訳

小・中教職員	84	51
小学生保護者	56	70
年長児保護者	54	18
小学生	47	39
中学生保護者	37	31

主な相談内容

不登校	125	95
性格・行動	61	61
就学	52	41
特別支援	50	51

3・4月の行事予定

月	日	曜	行事
3	6	水	Let's教室 卒業を祝う会
	11	月	ジャガイモ植え
	12	火	ウイング・ステップ担当者研修会 15:00
	14	木	まなびの教室 14:00
4	18	月	Let's教室 3学期終業式・保護者会
	8	月	小中学校 始業式・入学式
	16	火	特別支援学級担任等のための研修会
	17	水	Let's教室 始業式
	25	木	まなびの教室 14:00

※予定は、都合により変更になる場合があります。

Let's教室の1年間

今年度は、小学校4人、中学校10人の児童生徒が通級しました(見学・体験、仮通級を除く)。



シリーズ 0歳～15歳までの一貫した教育の推進 教室訪問のまとめ

対象	小学校	中学校	訪問回数	
新採用	9	1	20	
若手	2年次	10	6	32
	3年次	7	7	14
臨任	初任	7	12	38
	2年目	4	3	7
合計	37人	29人	111回	

【主な成果】

- 各校とも教室訪問の目的をご理解いただき、授業時間の組み換えや面談会場の準備に細やかなご配慮をいただいた。どの学校も児童生徒に落ち着きがあり、協力し合って授業に参加していた。準備や片付けも分担してみんなで進めていた。
- 昨年度に続き、4月当初の忙しい折りに時間を割いていただき担当校訪問を行うことができた。管理職に対応いただき、教室訪問の趣旨や時期・日程調整の手順を説明し、該当教員の所属学年・分掌・勤務状況等を確認させていただいたおかげで、その後の訪問が円滑に進められた。
- コロナ感染症が5類に移行され、学校の教育活動にも明るい兆しを感じられた。コロナ禍対応でのICT活用などはプラスに作用した面が多く、特に若手の先生は率先して授業に取り入れていた。今後の各校での実践の中で若手が活躍してくれることを期待している。
- 本市独自の夏季休業中の研修は、参集する研修機会が少なくなっている中、横のつながりももつことができた。

